

卒業研究題目

0021000 情報 学

情報科学研究室 指導教員: 計算 博 教授

1 研究背景と研究目的

1.1 研究背景

研究背景の節では，研究対象とするテーマの従来研究について具体的な論文を取り上げてその概要を述べるとともに，従来研究における問題点を指摘する．

1.2 研究目的

研究目的の節では，研究背景を受けて，その問題点を解決するための研究目的について記述する．

2 目的達成の手法

目的達成の手法の節では，目的を達成するための提案手法について記述する．方針の他，解析や成果などがあれば具体的に示す．

2.1 図表の記述

予稿には適宜図表を挿入する．

図表には適切なキャプションを付ける．図のキャプショ



図 1: ○○システムの処理の流れ
は図の下に置く (図 1).

表のキャプションは表の上に置く (表 1). 表中では，数値は右揃え，それ以外の要素は原則として左揃えとする．

表 1: ○○実験の結果

データ		正解率
A	A-1	1.23%
	A-2	45.67%
B	B-1	89.00%

2.2 数式の記述

数式の記述に際しては，含まれるすべての変数および関数について説明を付す．数式などが他文献で提案されたものであれば，参考文献を明記する．例えば，2つの要素 x, y に対して， $\text{PMI}(x, y)$ は式 (1) で定義される [3].

$$\text{PMI}(x, y) = \log_2 \frac{P(x, y)}{P(x)P(y)} \quad (1)$$

ここで， $P(x, y)$ は要素 x と y が同時に出現する確率， $P(x)$ ， $P(y)$ はそれぞれ要素 x ， y が出現する確率である．PMI 値が正のとき， x と y が同時に出現しやすいことを示し，負のときは同時に出現しにくいことを示す．

3 研究計画

研究計画の節では，上記の研究目的を達成するためには，何をいつまでに研究すべきなのかを計画した内容を具体的に示す．単にスケジュールの記載にならないように注意する．

参考文献

- [1] A. Zandi, J. D. Alen, E. L. Schwartz, M. Boliek, “CREW: Compression with Reversible Embedded Wavelets,” Proc. of IEEE Data Compression, pp.212–221, 1995.
- [2] 鈴木 教洋, 吹抜 敬彦, “動画像の速度に関する2つの基本定理の等価性について,” 信学論 (B), Vol.J68-B, No.1, pp.77–84, 1985.
- [3] 奥村 学, “言語処理のための機械学習入門,” コロナ社, 2015.